

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
東放学園映画専門学校		昭和59年4月2日		松島 司		〒 160-0023 (住所) 東京都新宿区西新宿5-25-8 (電話) 03-5333-5080		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人東放学園		昭和54年4月1日		斉藤 晃		〒 168-0063 (住所) 東京都杉並区和泉2-4-1 (電話) 03-3378-7538		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
文化・教養	芸術専門課程		プロモーション映像科		平成 7(1995)年度	-	令和 3(2021)年度	
学科の目的	映像・メディア業界で必要とされる技能とコミュニケーション能力を兼ね備えた創造力豊かなマルチクリエイターを育成することを目的とする。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	◎中途退学率:9.7%、◎取得可能資格:映像音響処理技術者資格認定試験、情報処理検定(表計算)、日本語ワープロ検定 ※在校生が多くのアーティストのミュージックビデオを制作し、公式HP等で公開されている。							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,700 単位時間	405 単位時間	860 単位時間	755 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)			
72 人	66 人		12 人		18 %			
就職等の状況	■卒業者数(C)		33 人					
	■就職希望者数(D)		28 人					
	■就職者数(E)		24 人					
	■地元就職者数(F)		18 人					
	■就職率(E/D)		86 %					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		75 %					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		73 %					
	■進学者数		1 人					
	■その他							
	・映像制作会社への就社希望が主だが、フリーランス(監督)として就業を希望する者もいる。							
(令和 5 年度卒業者に関する令和 4 年 5 月 1 日時点の情報)								
■主な就職先、業界等								
(令和5年度卒業生)								
(株)ダンスノットアクト、(株)PANSFILM、レスパスビジョン(株)、(株)サウンド・シティ、(株)629、(株)アクシスアソシエイツ(aaiスタジオ)、(有)インタースタジオ、(株)イラストン他(順不同)								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:				無			
	※有の場合、例えば以下について任意記載							
評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL				
当該学科のホームページURL	https://www.tohogakuen.ac.jp/movie/promotion/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数				1,960 単位時間			
		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		120 単位時間				
		うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間				
		うち必修授業時数		120 単位時間				
		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間				
		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		120 単位時間				
		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位時間				
	(B: 単位数による算定)							
	総授業時数				単位			
		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位				
		うち企業等と連携した演習の授業時数		単位				
		うち必修授業時数		単位				
		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位				
		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位				
		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位				
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者(専修学校設置基準第41条第1項第1号)				8 人			
	② 学士の学位を有する者等(専修学校設置基準第41条第1項第2号)				2 人			
	③ 高等学校教諭等経験者(専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人			
	④ 修士の学位又は専門職学位(専修学校設置基準第41条第1項第4号)				3 人			
	⑤ その他(専修学校設置基準第41条第1項第5号)				1 人			
	計				14 人			
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				8 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

高度な実践力や威力の発揮に欠かせない人間性や自立心を育み、環境や技術等の変化が著しい当該業界において順応力を持った人材を輩出するために、①学生が享受すべき知識や技術について、連携企業との日常的なコミュニケーション・意見交換を通じて、教育課程の編成や教育環境の構築に関して、積極的に反映させる事。②就職先ともなり得る連携企業に所属する社員を講師として招聘し、実習・演習授業において実利性・専門性が高いカリキュラムを構成する事。以上を、企業等との組織的な連携の基本方針としている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校長を委員長とし、以下、教務教育部長その他、学科運営を主たる業務とする学科主任を学内の委員とし、学科が委嘱する業界企業の方と業界関連団体に所属し、実践の環境を熟知し、あるいはそれらを俯瞰し統括する立場の方を学外の委員として構成している。

学外委員からは専門分野に関わる人材の育成に有用なご意見や改善点、新たな施策を提示して頂き、当該業界の動向や変化等について、学内委員からは学事や学生の動向等について意見交換を行い、積極的な情報共有を図る。また、カリキュラムのあり方や授業の構成について、同業界において求める人材像や育むべき人間性や実践力について等、これらの具体的な要件に関しても意見交換や議論を行い、教育課程決定の基とする場として位置付けている。

当委員会の内容は、学内委員により学科毎に実施されているカリキュラム会議で発議がなされ、学科担当職員との意見交換を経て、重要度の高い項目等から教育課程の編成に取り入れられる。反映された項目は、次回以降の同委員会でフィードバックがなされ、今後の会議運営に役立てる事とする。以上を教育課程の編成に関する意思決定の過程としている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
園江 淳	日本映像スタジオ協会会長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	①
酒井 賢人	株式会社808 代表取締役 プロデューサー	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
大谷 純一郎	株式会社権四郎ガーブ 制作部長／チーフディレクター	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
松島 司	東放学園映画専門学校 学校長		—
蒲田 直樹	東放学園映画専門学校 副校長		—
柳田 晃寿	東放学園映画専門学校 教務教育部長		—
大和 秀平	東放学園映画専門学校 プロモーション映像科 学科主任		—
伊藤 亜季	東放学園映画専門学校 プロモーション映像科 学科担当		
青柳 高広	東放学園映画専門学校 学務管理部長		—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (7月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年7月14日 14:00～16:00(オンライン)

第2回 令和7年2月15日 13:00～15:00(オンライン)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

各委員からの提案内容や委員会での決定内容等に関しては、各学科の担当職員を中心に構成されるカリキュラム会議等において、次年度以降の教育課程の編成や、当該年度の授業内容に具体的に反映させている。

【本学科への意見・改善案等(抜粋)】

意見等:映像制作全工程カリキュラムにおいてMAの学習が多少弱いイメージがある。ポストプロダクションの業務としては、編集からMA、仕上げという工程があるため、可能であればMAの重要性も学べるとポストプロダクション業務の理解につながると思える。

改善点:ポストプロダクション業務に関する授業は、現在も多めに設定しているが、MA作業は弱点の一つでもあるので、今後学生の負担にならない様に、度のタイミングで実施するかも含め検討していく。

意見等:コロナ期間を通じて、在宅勤務が増え、一人に課せられる役割が増えたように感じる。今後は、このやり方も業界では並行して進んでいくと思われるので、そこで重要とされる、クライアントとのやり取りや同メンバーとの連携など、より一層コミュニケーション力が試されることになるので学生たちにも作品制作を通してその重要性やコミュニケーション力を向上させてもらいたい。

改善点:作品制作時は、学科担当が必ずフォローに入りながら外部との交渉に取り組んでいる。この席は何が必要で、何が重要かなども指導している。コロナを通じてオンライン上で仕事を進めることもあるようなので、コロナ収束後もオンラインについての対応は、授業の中でも時折利用していきたいと思う。その上でのツールの使い方やコミュニケーションの取り方なども指導していくこととする。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

①映像・メディア業界で必要とされる技能とコミュニケーション能力を兼ね備えた創造力豊かなマルチクリエイターを育成する教育方針を重点項目としている本科において、これらの目的を達成するため映像ジャンルに捉われず高い技術力や広範囲に渡り業務を行なっている企業を選定している事。

②「現場が求める人材」の効果的な育成を目的に、現場の第一線で活躍している企業や外部講師から助言をいただき、それを積極的に反映させていく事。

③実習・演習授業において、授業回毎の具体的な内容や、学生の習熟度を鑑みながらの教育の程度・水準等について、学内の学科担当職員と議論や意見交換を図る等、同企業との連携を図りながら授業を担当していただく事。

以上3項目を、企業等との連携に関する基本方針としている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

本学科では、撮影や編集、デザイン、演出手法等の映像制作・技術に関わる各分野において、高度な実践力を身につけるための実習・演習授業を実施している。各分野の職種や業務に従事している企業と連携し授業を担当いただき、学生の理解度に応じたトレーニングを施しながら、指導内容の習熟度や関連知識の理解度等を勘案しながら学修成果の評価を実施している。

1年次前期では映像制作における基礎知識の習得、演出面だけでなく、予算や制作過程の指導を受け、レコード会社やレーベルに所属するアーティストのミュージックビデオの制作実習を実施している。

2年次では、より実践力を高めるため、After Effectsやdavinci resolve等映像ソフト・業界スタンダードとなった4K収録・編集技術等を習得を指導していただき、後期にかけて行われる「卒業制作」への総合的な学習を実施している。

また、連携企業や外部講師を招聘し、学科担当職員全員・就職担当職員との懇談の場である講師会を実施。意見交換と情報共有を図り、各担当授業のシラバスや具体的な実習・演習内容を検討したり確認したりしながら、教育課程の充実と教育内容・学校職員の質向上に努めている。

上記会議体のみならず、連携企業や協力いただいている外部講師とは、定常的に当該現場の動向や変化、学生の資質等の情報を交換しながら、細やかな話し合い・コミュニケーションを通して、上記主旨同様の効果を図るための対策を常に施している。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
映像創作基礎	映像を鑑賞しディスカッションします。幅広い知識を身につけると共に、映像を見る力や思考力を養います。	合同会社NOBO
映像創作分析	映像を鑑賞しディスカッションします。感じたこと、発見したことを言葉にして相手に伝える過程で映像を作る力を養います。	合同会社NOBO

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

本校では「東放学園 教員研修規程」として教員研修の目的、方針、教員の責務、報告などの事項を定めており、教員の業務経歴や能力、担当する授業科目等に応じ、専攻分野の実務に関する知識、技術、技能並びに、学生に対する指導力等、教員の能力及び資質等の修得・向上を図るため、適宜、企業等と連携した研修を行うことを基本方針としている。

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

本校では「東放学園 教員研修規程」として教員研修の目的、方針、教員の責務、報告などの事項を定めており、教員の業務経歴や能力、担当する授業科目等に応じ、専攻分野の実務に関する知識、技術、技能並びに、学生に対する指導力等、教員の能力及び資質等の修得・向上を図るため、適宜、企業等と連携した研修を行うことを基本方針としている。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	Inter BEE2023	連携企業等:	一般社団法人 電子情報技術産業協会
期間:	2023年11月15日～11月17日	対象:	プロモーション映像科 専任教員
内容	日本随一の音と映像と通信のプロフェッショナル展として、コンテンツビジネスにかかわる最新のイノベーションが国内外から一堂に会する国際展示会。アフターコロナ時代におけるメディア産業の新たなユーザーエクスペリエンスを提示する展示会として、「コンテンツ」を中核に位置づけ、コンテンツを「つくる(制作)」「おくる(伝送)」「うける(体験)」の技術要素を網羅した「メディア総合イベント」に変容する。		
研修名:	CREATORS EDGE2023 ソニーマーケティングセミナー (制作ワークフロー)	連携企業等:	玄光社
期間:	2023年10月18日	対象:	プロモーション映像科 専任教員
内容	Sonyのカラーサイエンス、Log撮影について／EI撮影についての講義。Sonyのオフィシャルムービーを手がける講師による、Sonyの新機種「BURANO」を使用したショートムービー紹介。Ci Media Cloudを活用した次世代のクラウドワークフローの解説。		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	分かりやすい説明の仕方研修	連携企業等:	株式会社インソース
期間:	2023年9月19日(火)	対象:	プロモーション映像科 専任教員
内容	学生指導、保護者対応、関連企業団体等とのコミュニケーションを図る上で最も重要とされることでもあり、説明の仕方は、担当授業においても十分活かせるものである。教職員としてのスキルアップのための研修としている。		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	Inter BEE2024	連携企業等:	一般社団法人 電子情報技術産業協会
期間:	2024年11月13日～11月15日	対象:	東放学園全職員
内容	日本随一の音と映像と通信のプロフェッショナル展として、コンテンツビジネスにかかわる最新のイノベーションが国内外から一堂に会する国際展示会。アフターコロナ時代におけるメディア産業の新たなユーザーエクスペリエンスを提示する展示会として、「コンテンツ」を中核に位置づけ、コンテンツを「つくる(制作)」「おくる(伝送)」「うける(体験)」の技術要素を網羅した「メディア総合イベント」に変容する。		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	ロジカルシンキング研修	連携企業等:	株式会社インソース
期間:	2024年12月19日	対象:	東放学園全職員
内容	「ロジカル(論理的)である」ということは、筋道が通っていて、矛盾がないことを指します。ロジカルシンキングのフレームを学ぶだけでなく、思考法を実際にビジネスの現場で使えるようになっていただきます。また、ワークは具体的かつ身近なテーマで構成されており、研修が進むにつれて無理なくロジカルシンキングを身につけることができます。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

(法人の基本方針)

①教育の一層の充実を図り、学校の目的および社会的使命を達成するため、各校における教育活動等の状況について定期的に関係者評価を行い、随時改善を図ることを目的とする。

②学園は充実した学校評価制度の構築に努め、各校・各部門はこれを実施する体制を整える。

③各校・各部門は、情報公開を念頭に揚げ、より高い基準を設定し関係者評価を実施する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	使命、行動指針、教育方針、理念、目的、育成人材像
(2)学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、人事・給与制度、意思決定システム、情報システム
(3)教育活動	目標の設定、教育方法・評価等、成績評価・単位認定等、資格・免許取得の指導体制、教員・教員組織
(4)学修成果	就職率、資格・免許の取得率、卒業生の社会的評価
(5)学生支援	就職等進路、中途退学への対応、学生相談、学生生活、卒業生・社会対応
(6)教育環境	施設・設備、学外実習、インターンシップ等、防火・安全管理
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動、入学選考、学納金
(8)財務	財務基盤、予算・収支計画、監査、財務情報の公開
(9)法令等の遵守	関係法令・設置基準の遵守、個人情報保護、学校評価、情報公開
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献の取組み、ボランティア活動の取組み
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

委員会での結果を活用し、教育活動及び学校運営の質の保証と向上に継続的に努めるための改善措置を随時行っている。委員の意見やアドバイスを尊重し「即対応」「計画的対応」などを検討し、可能な限り改善を行っている。(カリキュラムの改革、機材の購入、教員のスキルアップ等)特に、時代に合わせた社会人向け教育や、卒業生の早期退職者フォローにも活かせる内容を試みている。

【プロモーション映像科において】※就職率の向上、映像の多様化への対応をして行く。

[意見]報告書からも引き続きオンライン授業をより多く適応させているようであるが、学生の満足度などを調査しているか。

[改善策]各期の最後に、授業評価アンケートを実施しており、学生の満足度はリサーチしている。オンライン授業の活用が授業の効率化にもつながっている。ただ、実際の撮影現場や就職先のことを考えると、対面式で実施することの重要性も理解できた。今後はハイブリッド化を目指し、より効果の見られた科目はオンラインを継続しつつ検討していきたい。

[意見]インターンシップという科目がないが、学生が現場へ行く実習は取り入れているか。

[改善策]インターンシップの重要性は強く感じている。専門学校卒業後は映像制作会社へ進む学生が多いため、科目名にはなっていないがavex社との連携によりMVの制作を実施している。学生たちのモチベーション向上につながっているため、多方面においても検討していく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
月野木 隆行	学校法人東放学園 元理事 学校法人東放学園 東放学園専門学校 元校長 学校法人東放学園 東放学園映画専門学校 元校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	教育・学校運営に関する有識者
浅井 千瑞	株式会社 メディアミックス・ジャパン 制作演出部部長、プロデューサー	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	就職先及び関連業界関係者

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

認可された教育機関として、社会への説明責任を果たすとともに、教育の質保証・向上の観点から、学生、保護者、地域住民、関連業界企業等に教育活動や学校運営の状況に関する情報を提供する。また、同窓会組織や東放学園キャリアサポートセンターと連携を図り、卒業生や企業等から積極的に意見を聴取して、業界のニーズを反映した教育環境の整備や

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	基本理念、使命、行動指針、教育方針、学園概要、沿革、お問い合わせ
(2)各学科等の教育	募集学科、募集定員、出願資格、学科紹介、学びのポイント、おもな力
(3)教職員	学園概要(校長名、教員数)
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職・デビュー支援
(5)様々な教育活動・教育環境	部&クラブ活動紹介、機材・設備
(6)学生の生活支援	学生寮
(7)学生納付金・修学支援	学費、奨学制度・教育ローン
(8)学校の財務	情報公開(財務情報)
(9)学校評価	情報公開(自己評価報告書、学校関係者評価報告書)
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.tohogakuen.ac.jp>

公表時期: 令和6年5月1日

授業科目等の概要

#REF1	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授業 時 数	授業方法			場所		教員		企業等との 連携	
	必修	選択必修	自由 選択					講 義	演 習	実験・ 技 術 実 習・ 実 内	校 校 外 外	専 任	兼 任			
1	○			映像演出	見やすい構図の作り方から、カメラアングル・カメラポジション・カメラワーク等の勘かし方や説明的な映像の撮り方や組み合わせ方、撮影に関する書籍等の作成方法やマナーについても学習し、プロとしての知識と意識を学習します。	1 前	30	○	○	△	○					
2			○	映像デザイン	構図や色彩などのデザイン作業に必要な知識を習得するということを前提とし、様々な講義を進めていきます。基本的には講義が中心となりますが、時には、色彩や構図などに関するデザイン作業も行い、色彩感覚やデザイン感覚を養います。	1 前	30	○	○		△	○			○	
3			○	イメージプランニング	様々なテーマについて資料を読んだり映像を見たりしながら「自分はどう思ったか」その考えを「言葉にする」練習をします。更にはそれを「企画」に発展させるプロセスを学んでいきます。	1 前	30	○	○			○				
4	○			映像創作基礎	映画・映像を鑑賞し、講義・ディスカッションを行います。そこでは何が写っているのか、どうやって表現されているのか、何が語られているのかを考察します。	1 前	60	○	○		△	○			○	○
5	○			映像創作分析	前期「映像創作基礎」で行った授業をさらに掘り下げながら映像を鑑賞しディスカッションします。自分の感じたこと、発見したことをどうにか少しずつ言葉にして相手に伝える。その過程が映像を作る力になります。	1 後	60	○	○		△	○			○	○
6	○			特別講座Ⅰ	毎回映像業界のあらゆるジャンルのプロフェッショナルをゲストに迎えて、最前線で仕事をしているプロならではの視点から、そのノウハウやトピックスを繰り交ぜ、映像業界の実態に関する講義をして頂きます。	1 前	30	○	○			○		○		
7			○	就職講座Ⅰ	就職のための知識やマナーを学びます。授業の進め方は、実習形式と座学形式で展開していきます。	1 通	30	○	○		△	○		○		
8	○			プロモーション映像制作	好きなアーティスト・商品に対する主観的なイメージで創造するのではなく、仕事として依頼されたアーティストの楽曲をアーティスト側との共同作業でミュージックビデオを制作していきます。	1 後	##	○		○	△	○	○	○		
9	○			ヴィジュアルイメージ	音楽ではなく、映像を使って他者に対して何かを表現する、視覚的コミュニケーションの基礎を実習していきます。	1 前	80	○		○	△	○	○	○		
10	○			ノンリニア編集 (Premiere Pro)	映像作家・クリエイターの業界標準となったPremiereというソフトの基本概念の理解を深め、その機能と操作方法を体系的に学びます。	1 前	60	○		○	△	○			○	
11			○	グラフィックソフトトレーニング	Adobe「Illustrator」「Photoshop」いうソフトの基本概念の理解を深め、その機能と操作方法を実践的に学びます。	1 後	60	○		○	△	○			○	
12			○	DaVinci Resolve	DaVinciResolveをしようするところからチュートリアルに沿って学んでいきます。プロモーション映像の課題で使用する頻度が多い作業や実際にMVの素材からマルチクリップ編集～カラーグレーディング技術まで習得します。	1 後	60	○		○		○			○	
13			○	ライティングデザイン	撮影時に最低限必要である照明の知識を学んでいきます。電気的基础から撮影に使われる照明機材の使い方や電球の種類等、様々な角度から照明のテクニックを経験してもらいます。	1 後	45	○		○	△	○		○		
14			○	ロケーションハンティング	台本(企画)の内容(場面)に合ったロケ(撮影)地を探し、他者に提示できる資料作成を行う授業です。	1 前	30	○		○	△	○	○	○		
15			○	デジタル撮影基礎	『デジタル撮影基礎』の授業ではSony α7Ⅲ (※ILCE-7M3) という一眼のミラーレスカメラを使用し、動画撮影にとって必要最低限な知識や技術、撮影方法などカメラを扱う上での基礎を学んでいきます。	○ ○	○	○		○	△	○			○	
16			○	デジタル撮影システムⅠ	撮影現場の体験をもとに、技術スタッフに必要な考え方やマナー、仕事のしかたの基礎を身につけます。用語と技術的知識を習得するとともに、実習を通して撮影技術の基礎を身につけます。	1 後	60	○		○	△	○			○	
17			○	空間インスタレーションⅠ	毎年行われる「学科イベント」に向け、単に作品を展示や上映する以外に、その表現スペース自体を表現媒体としてプロデュース・演出することを目的とし、実践を通じて学びます。	1 後	30	○		○	△	○			○	
18			○	空間インスタレーションⅡ イベント制作	「空間インスタレーションⅠ」で企画運営をして来たイベントのスタッフとしてアーティストのアテンションや映像実際に流す等の作業、生配信スタッフとしてカメラマン・スイッチング・配信用音声などを実践します。	1 短	30	○		○	△		○			
19			○	ゼミナールⅠ	モチーフは提示しますが、自由度の高い映像制作を行います。(映画制作、web配信、番組制作、写真等)	1 通	60	○		○	△	○	○	○		
20			○	スタッフゼミⅠ	授業外での撮影やイベント等、スタッフとしての活動を時間数として認定します。	1 短	30	○				○		○		
21			○	映像表現	独創性の高い作品を観ながら、その表現力と想像力の構成を考察します。また、時にアート界における特別ゲストを招き、その表現スタイルを体験していきます。	2 前	30	○	○			○			○	
22	○			特別講座Ⅱ	毎回映像業界のあらゆるジャンルのプロフェッショナルをゲストに迎えて、最前線で仕事をしているプロならではの視点から、そのノウハウやトピックスを繰り交ぜ、映像業界の実態に関する講義をして頂きます。	2 前	30	○	○			○		○		
23			○	アートディレクション	「(番組等の)タイトルデザイン」等、様々な作例をベースにより深く学びながらチームで作品制作を行います。	2 後	30	○	○		△	○			○	
24			○	就職講座Ⅱ	業界理解を深めつつ、筆記試験対策としての模擬試験や、面接対策としてプレゼンテーションの練習等を行ったりします。また、企業の方をゲストで招いて企業説明会も実施します。	2 前	30	○	○		△	○			○	
25			○	就職講座Ⅲ	卒業後の進路決定に向けて、授業内で業界関連企業の説明会と個人面談をベースとして進めます。	2 後	15	○	○		△	○		○		
26			○	卒業制作 MV	プロモーション映像科2年間の集大成として作品制作を行う学生最後の実習です。この「卒業制作(MV/CM)」では撮影・照明・音声等の技術として「MV」「CM」の両撮影へ準備段階から先バケまで参加します。	2 通	##	○		○	△	○	○	○		
27			○	卒業制作MV企画・制作・演出	卒業制作MVで、作品制作の要となる企画立案・企画書作成、プレゼンテーション、画コンテ・番宣表等書類作成など制作全般を行います。	2 通	60	○		○	△	○	○	○		

28			○	卒業制作 個人映像 企画・演出	プロモーション映像科2年間の集大成として個人で 作品制作を行う実習です。企画内容を自分で決め、 創造性や映像制作スキルの向上を目指します。	2 通	45	○		○	△	○	○	○		
29			○	卒業制作 個人映像 撮影・編集	プロモーション映像科2年間の集大成として個人で 作品制作を行う実習です。企画内容を自分で決め、 創造性や映像制作スキルの向上を目指します。	2 通	##	○		○	△	○	○	○		
30			○	ミュージック ビデオ制作	プロモーション映像科2年間の集大成として個人で 作品制作を行う実習です。この「ミュージックビデオ制作/CM制 作」では撮影・照明・音声等の技術として「MV」 「CM」の両撮影へ準備段階から参加・完成まで参 加します。	2 前	##	○		○	△	○	○	○		
31			○	ミュージック ビデオ制作 企画・制作・ 演出	「MV」の制作を行う授業です。1年次よりも実習と して、更にハイクオリティな作品制作を目指しま す。	2 前	60	○		○	△	○	○	○		
32			○	デジタルエ フェクト	Adobe「AfterEffects」を使用し、モーショングラ フィックスとビジュアルエフェクトの基礎を学び ます。	2 前	60	○		○	△	○			○	
33			○	デジタル撮影 システムⅡ	4KCamera「REDDigitalCinema」及びSONY 「PXWFS7/FX9」を使って撮影技術を実践で学習して いきます。	2 前	80	○		○	△	○			○	
34			○	イメージディ レクション	この授業は「オリジナリティー」や「作家性」を 「自分自身」の「経験」を通して形にしていけるプロ セスを学ぶ授業です。	1 後	30	○		○	△	○			○	
35			○	映像制作	各自での映像制作を通じて、その映像を検証し、最 終的に作品にまとめます。	2 通	60	○		○	△	○			○	
36			○	空間インスタ レーションⅡ	毎年行われる「学科イベント」に向け、単に作品を 展示や上映する以外に、その表現スペース自体を表 現媒体としてプロデュース・演出することを目的と し、実践を通じて学びます。	2 後	30	○		○	△	○			○	
37			○	空間インスタ レーションⅡ イベント制作	「空間インスタレーションⅠ」で企画運営をして来 たイベントのスタッフとしてアーティストのアラン ドや映像を実際に流す等の作業、生配信スタッフと してカメラマン・スイッチング・配信用音声などを 実践します。	2 短	30	○		○	△		○	○		
38			○	ゼミナールⅡ	モチーフは提示しますが、自由度の高い映像制作を 行います。（映画制作、web配信、番組制作、写真 等）	2 通	60	○		○	△	○	○	○		
39			○	スタッフゼミ Ⅱ	授業外での撮影やイベント等、スタッフとしての活 動を時間数として認定します。	2 短	30	○		○			○	○		
合計						39	科目	1960 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：①期日迄の学費納入、②必修科目を含む年間800時間以上、卒業時 1700時間以上の修了認定		1 学年の学期区分	2 期
履修方法：初回の授業(ガイダンス)で内容を確認し、期日迄に履修科目の登録を 行う。		1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。